科目名			担当教員	
ソーシャルワーク演習Ⅰ			三浦剛／関川伸哉／高野亜紀子／清水冬樹／芳賀恭司／二渡努／眞嶋智彦／石田力／須田仁ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CN4252	3	1	SR（演習）	3年以上
履修登録条件		「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録できます。		
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※実習を受講予定の方は「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」を同時に履修登録してください。

科目の概要

■科目の内容

社会福祉士として求められる専門的資質、専門知識、専門技術の習得を図ることを目的とする。社会福祉士の専門知識、専門技術として求められる相談援助の一連の過程について、具体的事例（社会的排除、児童問題、高齢者問題、家庭内問題、低所得者、ホームレス等）を通してその内容を熟知する。また、地域づくりに関しての基本的知識・技術の習得を図ることに焦点をあて、社会資源の活用や開発、利用者理解・社会生活上の課題理解を深めていくことを目的とする。

1）ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。
2）社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。
3）支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。
4）地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。
5）ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。
6）実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。

■到達目標

ソーシャルワーク（社会福祉援助技術）の具体的実践の習得に焦点をあて、利用者理解・社会生活上の課題理解を深められ、ロールプレイなどで実践できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価４０％＋スクーリング評価６０％

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワーク演習Ⅱ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座［専門科目］7 ソーシャルワーク演習（社会専門）』中央法規出版、2021 年

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。

【参考図書】

1）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座［共通科目］１２ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、２０２１年

2）日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座［共通科目］１１ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、２０２１年

3）稲沢公一、岩崎晋也編著『社会福祉をつかむ【第３版】』有斐閣、2019 年

4）東洋大学福祉社会開発研究センター編集『社会を変えるソーシャルワーク（新・MINERVA 福祉ライブラリー35）』ミネルヴァ書房、2020 年

5）木村容子、小野眞知子編著『ソーシャルワーク論Ⅰ：基盤と専門職』法律文化社、2023 年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

1）この科目は、スクーリングの受講が必須となります。

2）1 クラス 20 人以内の少人数で開講します。

3）受講料は 10,000 円となります。

4）受講許可証・納入依頼書は、各受講判定日（申込締切日）以降に発送します。

5）スクーリング開講日・申込締切日は、通信教育部 HP 掲載の『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。

6）申込方法は、通信教育部 HP 掲載の『With』またはポータルサイトで案内します。

7）クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。

8）申込締切後の受講日・受講地の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。

9）公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席も認められません。

■スクーリング受講条件

受講判定日（＝スクーリング申込締切日）までに

① 「ソーシャルワークの基盤と専門職」の２単位めレポート提出

② 「ソーシャルワーク演習」の２単位めレポート提出

③ 「ソーシャルワーク演習Ⅰ」の１単位めレポート提出

④ 「ソーシャルワーク演習」スクーリング試験の合格

⑤（入学後 1 年以上経過した方は）認定単位を除き卒業要件単位 20 単位以上の修得

※各提出期日は通信教育部 HP 掲載の『試験・スクーリング情報ブック』を参照。

※各受講条件は、見直しにより変更となる場合があります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	ソーシャルワークの実際を理解する①（虐待、ひきこもり）	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対しての支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
2	ソーシャルワークの実際を理解する②（貧困、認知症）	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対しての支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
3	ソーシャルワークの実際を理解する③	これまでの事例をふまえ、ソーシャルワークの価値、倫理的な判断をテーマとしたピアスーパービジョン（グループスーパービジョン）を行う。
4	ソーシャルワークの実際を理解する④（終末期ケア、災害時支援）	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対しての支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
5	ソーシャルワークの実際を理解する⑤（虐待、権利擁護、アドボカシー）	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対しての支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
6	ソーシャルワークの実際を理解する⑥（地域の基盤整備と開発）	支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対しての支援について、事例を用いて理解する。事例研究の発表を行い、グループディスカッションを行う。
7	ソーシャルワークの実際を理解する⑦	１～６回で学習した事例を振り返り、ソーシャルワークにおける総合的包括的支援についてディスカッションし、発表する。
8	ソーシャルワークの実際を理解する⑧	これまでの事例をふまえ、ソーシャルワークの価値、倫理的な判断をテーマとしたピアスーパービジョン（グループスーパービジョン）を行う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書や配布資料の事例などを用いて演習を進めます。

なお、演習のスクーリングでは「参加」の姿勢が大切です。

■スクーリング評価基準

スクーリングの最後に試験をおこないます。「技術」がどの程度身についたかを直接テストすることはできませんが、このスクーリングを通して、どの程度ソーシャルワークの価値・倫理、知識、技術が、具体的に理解できたかを問います。スクーリング中に学んだ内容から出題します。スクーリング中はこれまで学修した内容を具体的に理解するよう努めてください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの理論と方法」など、ソーシャルワークについてのこれまでの復習を必ずしてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	ソーシャルワークの価値・規範⑴	ソーシャルワークの価値、倫理について	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義、社会正義や多様性の尊重などの具体的理解をめざす
2	ソーシャルワークの価値・規範⑵	ソーシャルワーカー（社会福祉士等）としての倫理、行動規範について	職能団体の倫理綱領、行動規範などを参考にする
3	ソーシャルワークの価値・規範⑶	倫理的ジレンマの解決など、価値規範にかかわるソーシャルワークの実際について	当該箇所の事例などを用いて学習する
4	ソーシャルワークの知識と技術⑴	ソーシャルワークの知識と技術について	教科書等で確認し、体系的理解と概念化を目指す
5	ソーシャルワークの知識と技術⑵	ソーシャルワークの過程について	教科書等で確認し、具体的理解を目指す
6	ソーシャルワークの知識と技術⑶	実践について	ソーシャルワーク体系を意識し、実践事例を探し、あてはめる
7	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解⑴	社会的排除による重層的な問題について	８０５０問題、ゴミ屋敷問題、引きこもりなど関係性からの排除によって起こる今日的な社会課題について、その発生のメカニズムなどを調べる
8	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解⑵	現代的な課題解決の方法について	総合的、包括的な支援とは何か、調べる
9	ソーシャルワークを利用する人、状況の理解⑶	そのためのソーシャルワーク実践について	実際の実践事例などを探してみる
10	地域課題の把握と解決の方法⑴	地域の特性や課題の理解について	現代的な地域課題について、文献などから学ぶ
11	地域課題の把握と解決の方法⑵	地域特性や課題の把握の方法について	地域アセスメントの方法などについて、具体的に調べる
12	地域課題の把握と解決の方法⑶	地域課題解決の方法について	実際の実践事例などを探し、検討する
13	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性⑴	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性について	それぞれのレベルの意味を知り、課題がどのように発生するか調べる
14	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性⑵	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの展開過程について	実際の実践事例を調べ、検討する
15	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの連続性⑶	ミクロからマクロ・レベルまでのソーシャルワークの実践について	実践モデルやアプローチを調べる

■レポート課題

1 単位め	**（スクーリング事前課題）** 社会問題、社会福祉的課題とされている事例を選び（ご自身がかかわったこと、新聞や文献などから得たこと、これまで受けた講義、演習などから）、ソーシャルワークの価値、展開過程について解説し、考察を行ってください。 ＊事例とは特定の個人、家族などのこと（ケースファイル）ではなく、社会問題、社会福祉的課題を取り上げてください。（担当：関川伸哉）
2 単位め	**（スクーリング事後課題）** 地域におけるソーシャルワークについて、アウトリーチが用いられた事例を取り上げながらその実践展開過程（プロセス）をまとめ、クライエントが自らの社会福祉課題と向き合う機会をソーシャルワーカーはどのように構築することが求められるのか、あなたの考えを述べてください。 ※事例について文献等を参考にしてください。自身の経験に基づくものは受理しません。また、参考にした文献等の出典を必ず明記してください。出典の記載がない場合受理しません。（担当：清水冬樹）
3 単位め	**（スクーリング事後課題）** 複合的、重層的な課題を抱える人への包括的支援について、その特徴と支援に携わるソーシャルワーカーに求められる専門性についてまとめてください。（担当：二渡努）

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

事例とは特定の個人、家族、地域などのことではなく、そこで展開されたソーシャルワークのことをいいます。ソーシャルワークの展開過程をしっかり意識して、自分のことばで、文章構成を明確に述べましょう。使用した事例などの出所を明示してください。

・レポート作成の際には、**3 つ以上**の参考・引用文献を用い、最後に記載してください。

・レポート作成の際、引用個所がわかるように**本文中に全ての引用文献番号を必ず記載**してください。

例）2023 年厚生労働省〇〇調査によれば，〇〇〇〇とされている[1)]．

・「1．事例概要について」では、**冒頭でどのような事例を扱うのかが分かるよう、明確に記載**してください。

例）今回取りあげる社会問題、社会福祉的課題とされている事例は、「〇〇〇〇」である。

・**必ず、以下の章立て**を行ってください。

1．事例概要について

2．本事例を用いたソーシャルワークの価値について

3．本事例を用いたソーシャルワーク展開過程について

4．まとめ

引用・参考文献

注意）HP 以外の参考・引用文献も使用してください。

【2 単位めアドバイス】

アウトリーチを展開していく中でクライエント自身が直面している社会福祉課題を自分事として向き合い、解決に向かっていくために、ソーシャルワーカーはどのような役割を担うことが求められるのかを問う設問です。出題の意図をきちんと理解してください。重要なポイントはクライエントとの関係構築、ないしクライエントの視点です。記述する際、（1）事例の概要、（2）ソーシャルワーカーによるアウトリーチの実際と展開について、自身の考えを交

えず客観的に記述し、（3）自身の考えを述べてください。自身の考えを整理する際、エンパワメントの４つのフェーズ（個人、集団、コミュニティ、政治の各レベル）について触れられると良いです。ただし、ただ取り上げれば良いというものではありません。概念の有効性と課題をきちんと理解してください。参考となるキーワードとして、インボランタリー、アクセシビリティ、パターナリズムを挙げておきます。また、余力があれば反抑圧的ソーシャルワークについても調べてみましょう。ケースマネジメントだけではないソーシャルワークの価値を言語化できると良いです。

【3 単位めアドバイス】

人と人、人と制度などの「関係性」が切られた状態が、８０５０問題、引きこもり、ゴミ屋敷、虐待、ワーキングプアなどの問題を引き起こす、社会的排除の状態です。近年のソーシャルワークの目的は、その排除の解決、いいかえれば「社会的包摂」の実現を目指すことです。

ソーシャルワークでは「重層的、包括的」にこれらの問題に対応しようとしますが、その具体的方法、過程、それを行うための組織運営などについて、具体的イメージができるように事例なども参考にまとめましょう。

引用、参考共に文献は本文中に明示し、巻末リストと対応させましょう。

■レポートの提出方法

1）1 課題につき、1 冊のレポート提出台紙を使用してください。

2）1 単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長 4,000 字程度まで記入していただいても結構です。パソコン印字の場合→左右 40 字×30 行×2～4 枚まで可。

3）教員名の欄には、課題ごとの担当教員名を記載してください。

4）各レポートは、所定の提出締切日までに提出してください（『試験・スクーリング情報ブック』参照）。

実習選考試験

■実習選考試験

1）実習受講希望者（実習Ⅰ免除者を含む）を対象に、スクーリング 1 日目の講義終了後に実習選考試験を実施します。

スクーリング 1 日目、講義終了後	**実習選考試験**
スクーリング 2 日目、最終コマ	スクーリング試験

2）実習選考試験またはスクーリング試験が不合格となった場合、当年度の「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の申込は無効となります。

3）実習・実習指導全免除者は実習選考試験の対象外となり、スクーリング試験のみ受講します。

4）前年度までに選考試験の合格にいたらず、今年度再受験を希望する場合は、本スクーリングの申込書にて選考試験の申込みをしてください。